

平成 27 年 11 月 13 日

新たな高等教育機関に対する意見

内田龍男

新たな高等教育機関

1. 育成する人材

- ① 各分野における卓越した専門技能者
- ② 卓越した技能を持ち、チームや専門組織のリーダー
- ③ 各分野の専門に通じ、その生産性、品質、効率を向上させ、世界との競合を担える人材

いずれの場合も下記の素養を有する。

- ④ 国家社会の構成員として相応しい教養
- ⑤ 変化する社会に柔軟に対応して必要な知識や技術を自ら学ぶことができる能力

2. 前期および後期課程と育成する人材の目標

前期課程では①および②のような人材の育成

後期課程では②および③のような人材の育成

3. 教育内容（図 1 参照）

- (a) ①については優れた専門知識や技能
- (b) ②については優れた専門知識と同時に人間力、学士力
- (c) ③については高度な専門的能力とイノベーティブな発想、課題発見、解決の能力
- (d) ④については一般教養
- (e) ⑤については専門分野を中心とした幅広い基礎力と新しいことを学ぶ意欲と能力

4. 学位

・前期課程修了：短大と同等の学位（ただし名称を例えば専門短期大学士のように区別する）

・後期課程修了：大学と同等の学位（ただし名称を例えば専門学士のように区別する）

（大学や短大と異なる名称とする理由は、大学や短大と互いに切磋琢磨してその内容を向上させ、そのレベルを社会が評価し、それに応じてより優れた教育機関に優秀な若者や資金が集まるような仕組みとするため）

高専の現状と新たな高等教育機関との関係

1. 高専の教育と育成する人材

- (1) 学術的には大卒レベルの基礎や専門の学力を養成するとともに、急速に進展する科学技術に対応する学術的基礎と自ら学ぶ力を育てている。
- (2) 豊富な実験、実習、演習や PBL、インターンシップ、独創力につながる各種のコンテストなどで実践力を育成している。
- (3) 民間企業での経験を持つ教員を 30%以上採用している。
- (4) 地域・企業からの外部講師による COOP 教育などを実施している。
- (5) 学術とものづくりを巧みに結びつける優れたセンスと発想を実践する力、行動力を育成している。
- (6) 15歳の入学時点から一般基礎教育と専門教育を楔形に配置し、早い時期から専門への興味と必要な学びのモチベーションを引き出している(図1参照)。

2. 高専が目指す更なる高度化

文科省有識者会議「高大接続システム改革会議」の中間まとめでは、「学力の3要素」として

①十分な知識・技能

②答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力等の能力

③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

を重視しているが、高専ではこれらについて上記したように実施してきた。これを更に高度化させていくために、現在、以下について取り組んでいる。

- (1) 先端的、総合的、複合的な技術に基づく高度なものづくりへの対応
- (2) 更なる専門性の急激で大きな変化にも適切に対応でき、新たな知識やスキルを自ら獲得し身に付けられる力を持つ技術者の育成
- (3) 多様性を尊重し、異文化を受入ながら組織を高める力
- (4) コミュニケーション能力：価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力
- (5) 地域・産学官連携機能を更に強化し地域産業の発展に貢献する。
- (6) 社会人の学び直しへの貢献

3. 高専における現状の課題

- ・教育を主体とし、研究のミッションを与えられていないために、科学技術の高度化が進む産業界との連携協働が困難化することや、外部資金獲得体制が不十分なため運営資金が厳しい状況にある。
- ・本科卒業生は「準学士」の称号のみで学位が与えられない。専攻科修了生は学位授与機構に申請しなければ学位が取得できない。このように高専が学位授与機関ではないために、海外の留学生から敬遠される側面があり、また高専型教育の国際展開を図る上でも課題となる(形式的には中学卒業後のテクニカル・スクールと同等のものとして位置付けられやすい)。

4. 高専との関係

上述の「1. 高専の教育と育成する人材」の項に記したように、新たな高等教育機関が目指す方向を高専では既に実施してきており、その意味で今回の教育機関が目指す方向は高専の教育方針とほぼ合致している。しかし、高専教育は15歳からの5年（専攻科も入れると7年）の一貫教育が基本にあり、しかも学部卒レベルの学術的基礎をしっかりと身につけた上に、高度な実践力を持つ技術者育成を使命としており、特定業種に必要な技能教育を目指すものではない。その点では、議論している新たな高等教育機関と大学の学士課程との中間に位置しているとみることができ、互いに補完関係にあると言えよう。したがって、互いに切磋琢磨してより良い教育機関として発展していくことを図ることが望ましい。

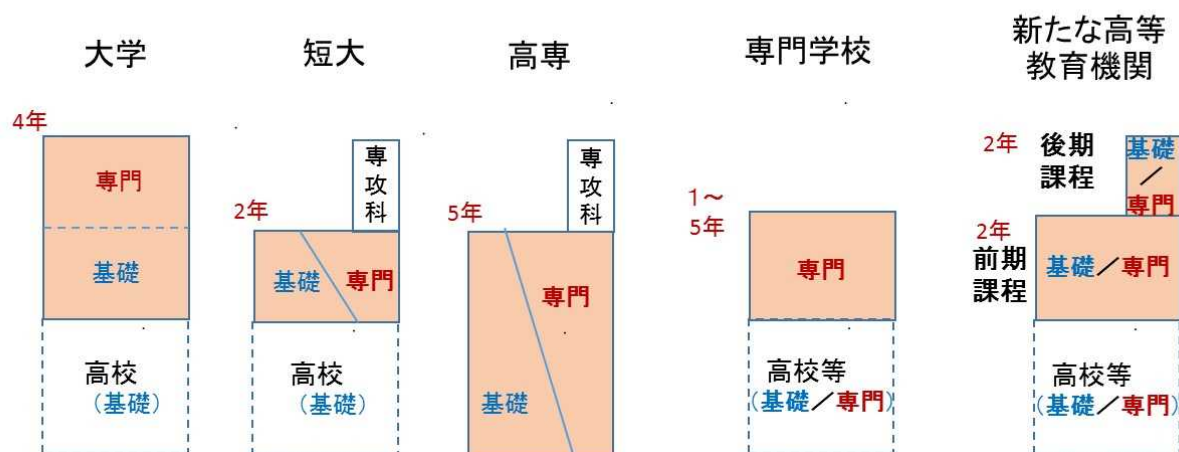


図1. 大学、高専、専門学校等の比較